

「墜落災害多発の異常事態からの脱却」に関する周知会

2022.11.8&11

清水建設 野口

こんにちは。本日は業務ご多用の中、周知会にご参集いただきありがとうございます。
時間の制約もありますので、形式的な挨拶は置いておき、さっそく本題をお話したいと思います。
今月の特安協でもお知らせした通り、10月17日付けで「墜落災害多発の異常事態からの脱却について（緊急指示）」の本社通達があり、それを受けて10月24日付けで私から支店事務連絡を発行しています。その内容については重複しますので割愛しますが、私がこの「異常事態」に対してどう考えているかを皆さんにお伝えしたいと存じます。

災害事例は後ほど説明がありますが、「なんでこんなことになるの？」と首をかしげざるを得ないものがほとんどです。「作業員のレベルが低下した」とか「現場内でのコミュニケーション不足が原因」という分析をよく聞きますが、「それなら、今後どうすればよいか？」という前向きな議論があまりないなあ、と個人的には感じています。不具合や災害が起こると、どうしても「新たなルールを作ったので守りなさい！」だとか「こういうことは禁止する！」といったネガティブな指示をしてしまいがちですが、私は「現場の作業員さんが“やりがい”を持って明るく前向きに仕事に向き合ってもらえれば、自ずと不安全行動が減り、災害も減る」という信念を持っています。

唐突ですが、ものづくりの本質は何だと皆さんは考えますか？

私は「未来を予測する想像力」だと思っています。建築物はあらかじめ設計図にて完成形が示されています。その完成形に向かってどのようなプロセスで工事を進めていくかを皆が各々の頭で一生懸命想像力を働かせ、バクトルを一つに集めてつくりあげていく、最終的に図面通り、いやそれ以上の付加価値をつけた建築物を完成させ、発注者や設計者の満足した顔を見て、施工者自身が達成感を味わう、それがものづくりの醍醐味であると言われてきましたし、私もそう思います。

安全＝危険予知なので、ものづくりの本質の基本だと考えます。品質にかかわる技術力はある程度の経験値を必要としますが、安全に関しては人間の「危険を回避する本能」に基づくものであり、ある意味経験のない素人の方が安全意識は高いくらいではないでしょうか？しかしながら不安全行動による災害が後を絶たないのは、単純に「その日に与えられた目の前の仕事をこなす」ことだけしか頭になくその先のことまで意識が及んでいないのか、スマホなどの余計な情報に振り回されて仕事に集中できていないのか、どちらかではないのかな、と感じます。本当のプロフェッショナルは基本ができています。いくら技量が優れた職人さんであっても基本となる安全ができていなければ、プロではないと思います。

話は変わりますが、“やりがい”を持ってもらうためには、責任の重圧に屈しない前向きな思考回路が必要で、そのためには優れた人間が先頭に立って全員をレベルアップしてい

く気概が必要だと考えますが、一朝一夕でできるような簡単なことではありません。まず自分の周囲に分身となる「同志（同じ意志・目的をもって一緒に頑張ってくれる人）」をつくってください。自らの腹のうちをさらけ出し、相手の長所を褒めて伸ばし、かつ途中で失敗したとしても支えてあげて結果的に成功体験を共有する、そういうプロセスを経ないと同志にはなってくれません。安全に関しては特に「あれもダメ、これもダメ」とダメ出しばかりではいつまでたっても「やらされている安全」の範疇から抜け出すことができないと思いますので、現場で地道に安全作業してくれている人に対して、感謝と称賛の言葉をかけてあげるようにしてください。そしてできれば、相応の報酬でこたえてあげてほしいと思います。

本日ここに集まってくださった方々は私の同志だと思っています。災害事例は自らの身体を傷つけることなく失敗体験をする良い教材として活用してください。是非本日得た情報を現場で実践に移していただき、各々の現場で同志を増やしていきましょう。結果として「シミズの現場は“明るい安全”に取り組んでいるので仕事させてほしい」、もっとスケールの大きいことを言えば、「建設業界ってこんなに明るく、やりがいがあるのならチャレンジしたい」というイメージを定着させて、若い人たちにこの業界に目を向けてもらうようになれば非常に喜ばしいと考えます。「安全から建設業界の未来を切り拓いていくんだ」くらいの気概をもって毎日の安全活動に励んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上